

読書感想文の書き方

【読書感想文の分類と感想の中心】

〈物語や小説など文学的作品〉

低学年…ただ感想を書くのではなく、登場人物が言ったことやしたことに対して自分はどう思ったかを書くこと。また、自分が体験（実際にあったこと、見たこと）して感じたことを入れるとよい。

中学年…何に対して感動したのか、その言葉や行動を書き留め、その感動はどこからきたのか、どのような実体験からきたのか、そう感じたわけを丁寧に記すことが大切である。

高学年…作品が語る主題（作者が一番言いたいこと）を押さえ、自分の体験を通した考えをしっかりと述べること。登場人物に自分を重ね合わせ、共感（その通りだと感じること）したまたは反感（そうじゃないとおもったこと）を持った言葉や行動を抜き出し、自分はなぜ共感したのか、反感を覚えたのか、その理由を記すことが重要である。また、その共感や反感は一つか二つに絞って、自分の生き方に反映させることや考え直す、その考えた流れをありのままに文に書き表すことも肝要である。

〈解説や説明文、論説など説明的な作品〉

低学年…科学的な読み物を何度も読み、感じたことを楽しんで書くこと。作品から得た知識や感動を一つか二つ選び、自分の気持ちを足して書くこと。

中学年…自然、科学、生活を題材にしたものと自分の生活経験とをどう結びつけるかが重要。また、自分が疑問に感じたことを書き、それをどのように解決できたかを順に追って書くことを心がけたい。

高学年…「生き物の尊さ」「たくましい生への感銘（感動）」「自然との共存」など作品の主題となる課題や疑問と向き合い、その疑問を解決していく過程を丁寧に書く。

【感想を書く手順】

- ① いくつか選び、自分の体験が書けるような作品、感動できそうな作品を見つける。
- ② 前書き、後書き、解説や挿絵、辞書などでその作品の主題（作者一番言いたいこと）をつかむ。
- ③ 全文を三度ほど読む。読みながら、「すごいな」と感動した部分、「何でだろう」と不思議に思った部分などの線を引く。
- ④ 次の部分で感じたことを箇条書き（一つ一つ分けて書く）する。
 - （ア）面白いと思ったところ （イ）感動したところ （ウ）共感したところ
 - （エ）反対したいと思ったところ （オ）違うと思ったところ
 - （カ）覚えがあると思ったところ （キ）許せないと思ったところ
- ⑤ 右の中から多く書けそうなもの一つを選び、次のテーマに沿って感想をふくらませて書いていく。
 - （ア）書いた人はそれに対してどのような考えを持っているのかを書く。
 - （イ）それに対して自分はどう思っているのかを書く。
 - （ウ）自分はこうしてそう思うのかを書く。
 - 自分がそう思うようになった原因や身近な体験
 - 家族や友人や先生の意見
 - 新聞やテレビで知った事柄（内容）や意見
- ⑥ 箇条書きで一応書き終わったら、それを順番に並べてまとめ書きをする。必要ならば文同士がつながるように「また」「そして」などの接続詞を使う。
- ⑦ 自分が出した考え、意見に対してまったく反対の面から考えた意見を加え、自分の考えを批判してみる。
- ⑧ その二つの面を比較しながら自分の意見をまとめる。
- ⑨ 考えさせられたこと、これからの自分の生き方などを最後に書き加える。
- ⑩ 清書の前に題名と書き出しの工夫をする。
 - × 「△△を読んで」「わたしは、本屋さんでこの本を選んだ。」
 - 「マタギの精神とは？」「マタギとは何だ。どんなものだ？仕事か？私は」
- ⑪ 清書する